

令和5年年間指導計画:「3年現代文B(普通科文系)」				国語科教科担当者氏名 池村 彩華 印	
科目名	現代文	4単位	教科書	改訂版 標準 現代文B (第一学習社)	2年と3年の2ヶ年にまたがって1冊を履修する。
対象	普通科・文系	3年	副教材	常用漢字ダブルクリア三訂版(尚文出版)・高校生必修語彙ノート(桐原書店)	

校長印	教頭印

1. 学習の到達目標

近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を養う。

2. 指導内容

- ア 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえること。
- イ 文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。
- ウ 様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。
- エ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえること。
- オ 目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、進んで表現すること。

3. 評価基準・評価方法

①関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解 の観点をつまみ、定期考査・実力テスト・課題・提出物・小テスト・授業態度などを総合して評価する。

4. 年間指導計画及び授業進度予定表

学期	月	単元	学習項目	時数	学習内容(ねらい)および評価の観点	学習領域	評価方法	
1 学期	4	世界を見つめる	ワスレナグサ	5	・随想の読解のしかたを習得する。 ・文章の構成の特徴について理解する。 ・自然と人間のかかわりについて見つめ直し、自らの考えを深める。	読む・知識	授業態度 指名音読	
		小説を読む(一)	ひよこの眼	10	・現代の短編小説を読んで、読解力を養う。 ・登場人物の心理や行動を読み解き、他者との関わり方、自己発見などについて見つめ直す契機とする。	読む・知識	授業態度 指名音読	
	5	新しい視点	記憶のゆがみ	7	・論理的な文章の読み方を習得する。 ・記憶のしくみについて学び、自身の日常生活について見つめ直す契機とする。	関心・読む	授業態度 発問理解	
		言語学習	意見文の書き方	4	・1、2年で学習した意見文の書き方を復習し他者へ自分の意見をどの様に伝えるかを考える。	書く・関心	意見文	
	6	詩を味わう	食事	3	・現代詩の鑑賞のしかたを習得する。 ・非日常的な感覚を味わい、想像力や感受性を豊かにする。 様々な表現を通して登場人物の心情変化を読み取っていく。	読む・書く	授業態度 指名音読	
		世界を見つめる	食と想像力	5	・随想の読解のしかたを習得する。 ・食という身近なものを新たな視点から見つめ直し、あるべき「食」の姿と労働のあり方について考えることで問題意識を養う。	関心・読む	授業態度 指名音読	
	7	小説を読む(一)	話を聞かせて	5	・随想の読解のしかたを習得する。 ・食という身近なものを新たな視点から見つめ直し、あるべき「食」の姿と労働のあり方について考えることで問題意識を養う。	関心・読む	授業態度 発問理會	
		生への思索	鏡としての他者	10	・論理的な文章の読み方を習得する。 ・他者との関係の中で自己を考えるという視点を学び、自己について考える契機とする。	読む・書く	授業態度 指名音読	
1学期計				49	中間・期末考査を行う			
2 学期	9	小説を読む(三)	山月記	10	・すぐれた短編小説を読み、鑑賞力を深める。 ・漢文訓読調の文章を味わい、表現力、感受性を豊かにする。 ・主人公を襲う運命について考え、自己の生き方に考えを向ける。	話す・理解	発問評価 学習課題	
		詩を味わう	こころ	6	・近代詩の鑑賞のしかたを習得する。 ・文語で書かれた詩を鑑賞し、言葉に対する感覚を磨く。	読む・書く	発問評価 学習課題	
	10	言語活動	要約のしかた	10	・要約のしかたを習得する。 ・筆者の主張を的確に理解する読解力とともに、それを簡潔にまとめる表現力を養う。	関心・話す	発問評価 学習課題	
		人間と社会	経験の教えについて	10	・論理的な文章を的確に読解する。 ・経験に学ぶことの難しさと重要性を自らの問題として捉え、自身の生活に引きつけて考える意識を養う。	関心・読む	発問評価 学習課題	
	11	短歌と俳句	折々のうた	5	・作品と鑑賞文との対応関係を理解し、すぐれた鑑賞を味わう。 ・近代短歌・近代俳句を味わうことを通して、想像力や感受性を豊かにする。	関心・理解	発問評価 学習課題	
		新しい視点	物語を発見する力	10	・物語を発見する力を実感し、人間のものの捉え方、感じ方について再考する契機とする。	関心・理解	発問評価 学習課題	
	12	生への思索	僕らの時代のメディア・リテラシー	10	・メディアの長所と短所について理解し、自分たちがメディアにどう関わっていくかという視点から、情報を的確に取捨選択する姿勢を養う。	読む・書く	発問評価 学習課題	
小説を読む(三)		山椒魚	10	・すぐれた短編小説の持つ緊密な構成を理解し、鑑賞法を習得する。 ・ユーモアのある文章を味わい、表現力、感受性を豊かにする。	読む・書く	発問評価 学習課題		
2学期計				71	中間・期末考査を行う			
3 学期	1	人間と社会	新しい博物学を	10	・筆者の主張を学ぶことを通して、科学と文化のあり方を自己の問題として考える契機とする。	読む・理解	発問評価 学習課題	
	2	小説を読む(二)	卒業	10	・主人公の心情の変化を捉え、自らの問題として、「仕事」や「友情」、「責任」について考える契機とする。	読む・理解	発問評価 学習課題	
3学期計				20	学年末考査を行う			
自己評価 ()内は達成率 A(80%以上)、B(65%以上) C(40%以上)、D(40%未満)					【次年度の課題】			年間授業時数 140

令和5年度シラバス:「3年古典(普通科文系)」			
科目名	古典	3単位	教科書 高等学校 標準古典B(第一学習社)
対象	普通科・文系	3年	副教材 記入して覚える 古典文法クリアノート(尚文出版) 漢文の習得 漢文基本ノートα(浜島書店)

1. 学習の到達目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。

2. 指導内容

- ア 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。
- イ 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえること。
- ウ 文章や作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。
- エ 文章や作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむこと。
- オ 古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考えること。

3. 評価基準・評価方法

①関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解 の観点をふまえ、定期考査・実力テスト・課題・提出物・小テスト・授業

4. 年間指導計画及び授業進度予定表

学期	月	単元	学習項目	時数	学習内容(ねらい)および評価の観点	学習領域	評価方法
1学期	4	説話	宇治拾遺物語	4	・比較的短い説話を読んで、古文に親しみをもち、話のおもしろさを理解する。 ・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。	関心・読む	発問評価・評価問題
	5		唐物語	4	・中国の説話を、和歌を含む和文に翻案した説話を読んで、我が国の文化と中国の文化との関係について理解する。	関心・読む	発問評価・評価問題
	6	逸話	不顧後患(説苑)	5	・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。	読む・知識	学習課題・評価問題
			圍人の罪(説苑)	5	・訓読をして、文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。	関心・読む	授業態度・学習課題
		物語	延喜の帝(大鏡)	5	・登場人物の行動や心情を読み味わう ・用言や助動詞の知識を確認し、解釈に活かす	読む・知識	授業態度・評価問題
	弓争ひ(大鏡)		5	・登場人物の行動や心情を読み味わう ・用言や助動詞の知識を確認し、解釈に活かす	読む・知識	授業態度・評価問題	
	7	三舟の才(大鏡)	5	・登場人物の行動や心情を読み味わう ・用言や助動詞の知識を確認し、解釈に活かす	読む・知識	授業態度・評価問題	
1学期計				33	中間・期末考査を行う		
2学期	9	俳諧	春夏秋冬(松永貞徳 他)	6	・俳諧にこめられた思想や感情を読み取る	読む・知識	学習課題・評価問題
		歴史の群像	孫臏(史記)	8	・話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。	読む・知識	学習課題・評価問題
	10	源氏物語	光る君(源氏物語)	12	・それぞれの場面、登場人物の人間関係を正確につかみ、微妙な心理の動きをたどる。	読む・知識	発問評価・評価問題
		日記	泔木の水(蜻蛉日記)	6	・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る ・文章の内容を構成や展開を的確に捉える	関心・読む・知識	授業態度・学習課題
	日本紀の御局(紫式部日記)		6	・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る ・文章の内容を構成や展開を的確に捉える	関心・読む・知識	学習課題・評価問題	
	夢よりもはかなき世の中(和泉式部)		6	・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る ・文章の内容を構成や展開を的確に捉える	関心・読む・知識	授業態度・評価問題	
12	漢詩の鑑賞	古体の詩	8	・漢詩のさまざまな描写に接する ・漢詩のリズムを意識しながら、正確に音読する	読む・知識	学習課題・評価問題	
2学期計				52	中間・期末考査を行う		
3学期	1	評論	無名草子(清少納言)	6	・人物評論を読んで作者の思想感情を読み取る ・文章の内容を構成や展開を的確に捉える	関心・読む・知識	発問評価・評価問題
			無名草子(紫式部)	6	・人物評論を読んで作者の思想感情を読み取る ・文章の内容を構成や展開を的確に捉える	関心・読む・知識	発問評価・評価問題
	2	中国の小説	三国志演義	8	・漢文独特の誇張表現のおもしろさを理解する。	関心・読む・知識	授業態度・評価問題
3学期計				20	学年末考査を行う		
自己評価:()内は達成率 A(80%以上)、B(65%以上) C(40%以上)、D(40%未満)					【次年度の課題】		年間 授業時数 105

令和5年度年間指導計画:「3年古典B(普通科理系)」				国語科教科担当者氏名	校長	教頭
				仲村 怜真 印		
科目名	古典	2単位	教科書	標準古典B(第一学習社)		
対象	普通科・理系	3年	副教材	記入して覚える 古典文法クリアノート(尚文出版) 漢文の習得 漢文基本ノートα(浜島書店)		

1. 学習の到達目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。

2. 指導内容

- ア 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。
- イ 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえること。
- ウ 文章や作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。
- エ 文章や作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむこと。
- オ 古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考えること。

3. 評価基準・評価方法

①関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解 の観点をつまみ、定期考査・実力テスト・課題・提出物・小テスト・授業

4. 年間指導計画及び授業進度予定表

学期	月	単元	学習項目	時数	学習内容(ねらい)および評価の観点	学習領域	評価方法
1学期	4	説話	望夫石(唐物語)	3	・登場人物の行動や心情を読み味わう。	関心・読む	発問評価・評価問題
			亀を買ひて放つ事(宇治拾遺物語)	3	・古人の思想や心情を読み取る	関心・読む	発問評価・評価問題
	5	逸話	不顧後患(説苑)	3	・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。	読む・知識	学習課題・評価問題
			宋人有嫁子者(淮南子)	2	・中国人のものの見方・考え方を理解する。	関心・読む	授業態度・学習課題
	6	物語(一)	延喜の帝(大鏡)	3	・登場人物の行動や心情を読み味わう ・用言や助動詞の知識を確認し、解釈に活かす	読む・知識	授業態度・評価問題
			弓争い(大鏡)	3	・登場人物の行動や心情を読み味わう ・用言や助動詞の知識を確認し、解釈に活かす	読む・知識	授業態度・評価問題
			三舟の才(大鏡)	3	・登場人物の行動や心情を読み味わう ・用言や助動詞の知識を確認し、解釈に活かす	読む・知識	授業態度・評価問題
1学期計				20	中間・期末考査を行う		
2学期	9	俳諧	春夏秋冬(松永貞徳 他)	4	・俳諧にこめられた思想や感情を読み取る	読む・知識	学習課題・評価問題
		史記の群像	孫臏(史記)	8	・話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。	読む・知識	学習課題・評価問題
	10	物語(二)	光る君誕生(源氏物語)	6	・それぞれの場面、登場人物の人間関係を正確につかみ、微妙な心理の動きをたどる。	読む・知識	発問評価・評価問題
	11	日記	泔木の水(蜻蛉日記)	3	・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る ・文章の内容を構成や展開を的確に捉える	関心・読む・知識	授業態度・学習課題
			日本紀の御局(紫式部日記)	3	・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る ・文章の内容を構成や展開を的確に捉える	関心・読む・知識	学習課題・評価問題
	12	漢詩の鑑賞	夢よりもはかなき世の中(和泉式部)	4	・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る ・文章の内容を構成や展開を的確に捉える	関心・読む・知識	授業態度・評価問題
12	漢詩の鑑賞	古体の詩(子衿/七步詩/雑詩)	5	・漢詩のさまざまな描写に接する ・漢詩のリズムを意識しながら、正確に音読する	読む・知識	学習課題・評価問題	
2学期計				33	中間・期末考査を行う		
3学期	1	評論	無名草子(清少納言)	3	・人物評論を読んで作者の思想感情を読み取る ・文章の内容を構成や展開を的確に捉える	関心・読む・知識	発問評価・評価問題
			無名草子(紫式部)	3	・人物評論を読んで作者の思想感情を読み取る ・文章の内容を構成や展開を的確に捉える	関心・読む・知識	発問評価・評価問題
	2	名家の文章	猫相乳/臨江之麋/売油翁	11	・漢文独特の誇張表現のおもしろさを理解する。	関心・読む・知識	授業態度・評価問題
3学期計				17	学年末考査を行う		
自己評価 ()内は達成率 A(80%以上)、B(65%以上) C(40%以上)、D(40%未満)					【次年度の課題】		年間 授業時数 70

令和5年度年間指導計画:「3年古典B(理数科)」				国語科教科担当者氏名	校長	教頭
				山里 聡 印		
科目名	古典	2単位	教科書	標準古典B(第一学習社)		
対象	理数科	3年	副教材	基礎から学ぶ解析古典文法(桐原書店) わかる・読める・解ける KeyPoint 古文単語330(いっずな書店) プログレス 古典総演習(いっずな書店) 基礎から解釈へ漢文必携(桐原書店)		

1. 学習の到達目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。

2. 指導内容

- ア 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。
- イ 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえること。
- ウ 文章や作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。
- エ 文章や作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむこと。
- オ 古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考えること。

3. 評価基準・評価方法

①関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解 の観点をつまみ、定期考査・実力テスト・課題・提出物・小テスト・授業

4. 年間指導計画及び授業進度予定表

学期	月	単元	学習項目	時数	学習内容(ねらい)および評価の観点	学習領域	評価方法
1学期	4	説話	望夫石(唐物語)	3	・登場人物の行動や心情を読み味わう。	関心・読む	発問評価・評価問題
			亀を買ひて放つ事(宇治拾遺物語)	3	・古人の思想や心情を読み取る	関心・読む	発問評価・評価問題
	5	逸話	不顧後患(説苑)	3	・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。	読む・知識	学習課題・評価問題
			宋人有嫁子者(淮南子)	2	・中国人のものの見方・考え方を理解する。	関心・読む	授業態度・学習課題
	6	物語(一)	延喜の帝(大鏡)	3	・登場人物の行動や心情を読み味わう ・用言や助動詞の知識を確認し、解釈に活かす	読む・知識	授業態度・評価問題
			弓争い(大鏡)	3	・登場人物の行動や心情を読み味わう ・用言や助動詞の知識を確認し、解釈に活かす	読む・知識	授業態度・評価問題
			三舟の才(大鏡)	3	・登場人物の行動や心情を読み味わう ・用言や助動詞の知識を確認し、解釈に活かす	読む・知識	授業態度・評価問題
1学期計				20	中間・期末考査を行う		
2学期	9	俳諧	春夏秋冬(松永貞徳 他)	4	・俳諧にこめられた思想や感情を読み取る	読む・知識	学習課題・評価問題
		史記の群像	孫臏(史記)	8	・話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。	読む・知識	学習課題・評価問題
	10	物語(二)	光る君誕生(源氏物語)	6	・それぞれの場面、登場人物の人間関係を正確につかみ、微妙な心理の動きをたどる。	読む・知識	発問評価・評価問題
	11	日記	泔木の水(蜻蛉日記)	3	・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る ・文章の内容を構成や展開を的確に捉える	関心・読む・知識	授業態度・学習課題
			日本紀の御局(紫式部日記)	3	・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る ・文章の内容を構成や展開を的確に捉える	関心・読む・知識	学習課題・評価問題
			夢よりもはかなき世の中(和泉式部)	4	・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る ・文章の内容を構成や展開を的確に捉える	関心・読む・知識	授業態度・評価問題
12	漢詩の鑑賞	古体の詩(子衿／七步詩／雑詩)	5	・漢詩のさまざまな描写に接する ・漢詩のリズムを意識しながら、正確に音読する	読む・知識	学習課題・評価問題	
2学期計				33	中間・期末考査を行う		
3学期	1	評論	無名草子(清少納言)	3	・人物評論を読んで作者の思想感情を読み取る ・文章の内容を構成や展開を的確に捉える	関心・読む・知識	発問評価・評価問題
			無名草子(紫式部)	3	・人物評論を読んで作者の思想感情を読み取る ・文章の内容を構成や展開を的確に捉える	関心・読む・知識	発問評価・評価問題
	2	名家の文章	猫相乳／臨江之麋／売油翁	11	・漢文独特の誇張表現のおもしろさを理解する。	関心・読む・知識	授業態度・評価問題
3学期計				17	学年末考査を行う		
自己評価 ()内は達成率 A(80%以上)、B(65%以上) C(40%以上)、D(40%未満)					【次年度の課題】		年間 授業時数 70

令和5年度3年選択A・選択C「国語表現」
年間指導計画

担当 田場 麻美 印

校長印 教頭印

科目	単位数	指導学年	使用教科書
国語表現	2単位(70時間)	3学年	大修館書店『国語表現』『国語表現基礎練習ノート』
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。		生徒の実態と指導の重点
			学力の格差は大きく、進路希望先も就職から上級大学まで幅広い。そうした多様なニーズに対応しつつ、社会人として必要な最低限度の国語力の習得に努めたい。

学期	月	教科書単元名	教科書教材名	領域(時間)			主な学習の目標 (評価規準)	評価の観点				評価方法等
				A (聞くこと・話すこと)	B (書くこと)	C (読むこと)		関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	
一学期	4月	1 書いて伝える	1 整った文を書く	2		・主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、整った文を書くために大切なことを理解する。	○	◎	◎	◎	ワークシート・小テスト・定期テスト	
			2 わかりやすい文を書く			・長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解する。 ・読点を適切に打ち、あいまいな文を避けることの大切さを理解する。	○	◎	◎	◎	ワークシート・小テスト・定期テスト	
			3 文のつながり方			・接続表現の種類と働きを理解する。 ・文脈による文のつながりを理解する。	○	◎	◎	◎	ワークシート・小テスト・定期テスト	
			4 絵や写真を見て書く			・図や写真を見て文章を書き、相手に伝わる文章を書くために必要なことを理解する。 ・相手に伝えることを意識してわかりやすい文章を書く。	○	◎	○	○	ワークシート・小テスト・定期テスト	
			表現への扉 1			・書くことや言葉の使い分けに関する文章を読み、自らの表現に生かす。	○	○	○	○	○	ワークシート・小テスト・定期テスト
	5月	2 小論文・レポート入門	1 小論文とは何か	3		・小論文の基本的な書き方を理解する。 ・意見を筋道を立てて書く。 ・原稿用紙の使い方や推敲の観点を理解する。	○	◎	◎	◎	ワークシート・作品・小テスト・定期テスト	
			2 反論を想定して書く			・自分の意見とは対立する意見を考慮しながら書くことの意味を理解する。 ・反論を想定して書く構成を理解し、それに沿って小論文を書く。	○	◎	◎	◎	ワークシート・作品・小テスト・定期テスト	
			3 資料を読み取って書く			・文章の要旨をつかむための方法を理解する。 ・資料に対する自分の意見を明確にして小論文を書く。	○	◎	○	◎	ワークシート・作品・小テスト・定期テスト	
			4 発想を広げて書く			・発想を広げるための方法を理解する。 ・発想を広げるための方法を活用して、小論文を書く。	○	◎	○	○	ワークシート・作品・小テスト・定期テスト	
			5 レポートを書く			・レポートの基本的な書き方を理解する。 ・客観的な根拠を集めて、説得力のあるレポートをまとめる。	○	◎	○	○	ワークシート・作品・小テスト・定期テスト	
			6 論文を書くために			・論文執筆の進め方とそのポイントを理解する。 ・引用の方法、参考文献や注の示し方を理解する。	○	◎	○	○	ワークシート・作品・小テスト・定期テスト	
			表現への扉 2			・現代社会に関する文章や資料を読み取り、それに対する自分の意見をまとめる。	○	○	○	○	○	ワークシート・作品・小テスト・定期テスト
	6月	3 自己PRと面接	1 自分を見つめて	2		・経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。 ・他者の意見を聞いて、自分の長所を見つける。	○	○	○	○	観察・相互評価、自己評価	
			2 効果的な自己PR			・自分の長所を端的に表現した、印象に残るキャッチフレーズを作る。 ・事実やできごとをふまえて、効果的な自己PRをする。	○	○	◎	○	観察・ワークシート・作品・発表・相互評価、自己評価	
			3 将来の自分を考えよう			・就きたい職業に就くために必要なことを調べる。 ・調べたことをふまえて、「将来の自分」について文章にまとめる。	○	◎	◎	○	観察・ワークシート・作品・相互評価、自己評価	
			4 志望動機をまとめよう			・志望先について十分な情報を集める。 ・調べたこと、やりたいこと、自己PRの三つを結びつけ、説得力のある志望動機を書く。	○	○	◎	○	観察・ワークシート・作品・発表・相互評価、自己評価	
			5 面接にチャレンジ			・適切な言葉遣いや態度で面接の受け答えをする。 ・質問に対して、具体的に説得力のある答え方をする。	○	◎	○	○	観察・相互評価、自己評価	
			表現への扉 3			・働くことや将来の夢についての文章を読み、自らの進路について考える。	○	○	○	○	○	ワークシート・小テスト・定期テスト
	7月	4 メディアを駆使する	1 通信文を書き分ける	1		・さまざまな通信文の形式を理解する。 ・相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書く。	○	◎	◎	◎	ワークシート・作品・小テスト・定期テスト	
			2 電話を使いこなす			・初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解する。 ・相手に応じた適切な言葉遣いや対応のしかたを理解する。	○	◎	○	◎	観察・ワークシート・相互評価、自己評価・小テスト	
			3 ネット社会とコミュニケーション			・ネットを用いたコミュニケーションの特長と使用する上での留意点を理解する。 ・電子メールを活用する上でのエチケットを理解する。	○	◎	○	◎	作品・ワークシート・小テスト・定期テスト	

二 学 期	9 月	4 メディアと情報	1	・情報が編集されたものであることを理解する。 ・メディアごとに立場や条件が異なり、情報の伝え方が異なることを理解する。	○			○	◎	・作品・ワークシート ・小テスト・定期テスト	
		表現への扉 4	1	・メディアについて書かれた文章や資料を読み、考えたことを話し合ったり、文章にまとめたりする。	○	○	○	○	○	・観察・作品 ・相互評価、自己評価 ・小テスト	
		5 声のコミュニケーション	1 言葉のストレッチ体操	1	・聞くこと、話すこと、伝え合うことを見つめ直し、コミュニケーションについて新たな発見をする。 ・コミュニケーションの楽しさを感じる。	○	◎				・観察 ・ワークシート ・相互評価、自己評価
			2 リーダーズシアターを開こう	2	・文章の内容に応じてふさわしい声の使い方を工夫し、効果的に朗読する。	○	◎		○	○	・観察 ・発表 ・ワークシート ・相互評価、自己評価
			3 ショートスピーチをしよう	2	・話すことの順序を考えて、わかりやすいショートスピーチをする。 ・話し手が話しやすい聞き方をする。	○	◎	○		○	・観察 ・ワークシート・発表 ・相互評価、自己評価
	表現への扉 5	1	・コミュニケーションについて書かれた文章を読み、自らの表現に生かす。	○	○	○	○	○	○	・ワークシート ・小テスト・定期テスト	
	1 0 月	6 会話・議論・発表	1 相手や場面に応じた会話	1	・場面にふさわしい言葉遣いを考える。 ・適切な言葉遣いでロールプレイをする。	○	◎			○	・観察 ・ワークシート ・相互評価、自己評価
			2 議論して結論を出す	2	・司会者などの役割を理解し、建設的な議論になるように協力し合いながら話し合いをする。 ・話し合いに積極的に参加し、結論を出すために貢献する。	○	◎			○	・観察 ・ワークシート ・相互評価、自己評価
			3 プレゼンテーションの工夫	3	・視覚的資料を用いながら、効果的なプレゼンテーションをする。	○	◎	○		◎	・観察 ・ワークシート・発表 ・相互評価、自己評価
			表現への扉 6	1	・文章を読み、考えたことについて議論をしたり発表をしたりする。	○	○	○	○	○	○
1 1 月	(第2部)	1 言葉で遊ぶ	3	・さまざまな言葉遊びを知り、おもしろさを味わうことを通して、言語文化に対する理解を深める。 ・言葉遊びの仕組みやおもしろさを理解し、オリジナルの作品を作る。	○	○	◎	○	◎	・観察 ・ワークシート・作品 ・相互評価、自己評価	
		2 詩歌を楽しむ	3	・さまざまな詩歌を読み、味わうことを通して、言語文化に対する理解を深める。 ・さまざまな詩歌の鑑賞をふまえて、表現を工夫しながら詩を創作する。	○	○	◎	◎	○	・観察 ・ワークシート・作品 ・相互評価、自己評価	
		3 魅力的なポスターを作ろう	2	・イベントなどの効果的なコピーを考える。 ・写真やイラストなどとコピーを効果的にレイアウトして、魅力的なポスターを作る。	○	○	◎	◎	○	・観察 ・ワークシート・作品 ・相互評価、自己評価	
		4 「わが町自慢」のパンフレット作り	2	・情報を適切に編集し、読み手を引きつけるような効果的なパンフレットを作る。	○	○	◎	◎	○	・観察 ・ワークシート・作品 ・相互評価、自己評価	
		5 働く人にインタビュー	2	・質問内容を吟味してインタビューをし、相手の話の大切な点を落とさずに聞き取る。 ・聞き取った内容を適切に編集し、文章にまとめる。	○	◎	◎	○	○	○	・観察・作品 ・相互評価、自己評価
三 学 期	1 月	6 みんなで作ろう国語辞典	2	・辞書の項目の構成を理解し、それに即して新しい項目を考える。 ・自分たちが普段使っている言葉を見つめ直し、言語感覚を豊かにする。	○		◎	○	○	・観察・作品 ・相互評価、自己評価	
		7 「私の虫類図譜」を作ろう	2	・『虫類図譜』を手本にして、想像を広げ、風刺を効かせた文章を書く。 ・イラストと文章を合わせて、魅力的な作品になるように工夫する。	○		◎	○	○	・観察・作品 ・相互評価、自己評価	
		8 エッセイを書こう	2	・着眼点、構成、文体、表現などに留意しながら、さまざまなエッセイを読み、味わう。 ・読んだエッセイを参考に、効果的な表現を工夫しながら自分でエッセイを書く。	○		◎	○	○	・作品 ・相互評価、自己評価	
		9 パロディー物語を書こう	2	・「吾輩は猫である」のパロディー物語を読み、表現上の工夫を理解する。 ・著名な小説の表現上の特徴をまねて、パロディー物語を書く。	○		◎	◎	○	○	・作品 ・相互評価、自己評価
2 月	10 演説合戦にチャレンジ	4	・賛成か反対かを明確にし、聞き手を説得できるように、筋道を立てて話す。 ・意見の根拠に注意し、説得力があるかどうかを考えながら聞く。	○	◎	○	○	○	○	・観察 ・ワークシート ・相互評価、自己評価	

令和5年 年間指導計画:「3年現代文B(理教科)」				国語科教科担当者氏名 仲村 怜真 印	
科目名	現代文	2単位	教科書	高等学校改訂版 標準現代文B (第一学習者) 2年と3年の2ヶ年にまたがって1冊を履修する。	
対象	普通科・理系	3年	副教材	常用漢字ダブルクリア(尚文出版)・高校生必修語彙ノート(桐原書店)	

校長印	教頭印

1. 学習の到達目標

近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を養う。

2. 指導内容

- ア 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえること。
- イ 文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。
- ウ 様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。
- エ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえること。
- オ 目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、進んで表現すること。

3. 評価基準・評価方法

①関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解 の観点をつまみ、定期考査・実力テスト・課題・提出物・小テスト・授業態度などを総合して評価する。

4. 年間指導計画及び授業進度予定表

学期	月	単元	学習項目	時数	学習内容(ねらい)および評価の観点	学習領域	評価方法	
1 学期	4	世界を見つめる	ワスレナグサ	4	・随想の読解のしかたを習得する。 ・文章の構成の特徴について理解する。 ・作品の主題に迫り、自然と人間のかかわりについて考察する。	読む・知識	授業態度 指名音読	
		世界を見つめる	食と想像力	4	・日本とタイ、猫と人間という対比から筆者の考えを読み取る。	読む・知識	授業態度 指名音読	
	5	小説を読む(一)	ひよこの眼	5	・現代の短編小説を読解する。 ・語り手の視点を意識し、登場人物の心理の変化を読み取る。	関心・読む	授業態度 発問理解	
		詩を味わう	食事	4	・現代詩の鑑賞の仕方を習得する。 ・各連の内容をつかみ、連ごとの展開を理解する。	書く・関心	発問評価 指名音読	
	6	詩を味わう	こころ	4	・この詩のおもしろさについてまとめる。	読む・書く	授業態度 指名音読	
		詩を味わう	日本海	4	・現代詩の鑑賞の仕方を習得する。 ・各連の内容をつかみ、連ごとの展開を理解する。	関心・読む	授業態度 指名音読	
	7	人間と社会	経験の教えについて	5	・論理的な文章を読解する。 ・経験に学ぶことの重要性を、自己の問題としてとらえる。	関心・読む	授業態度 発問理解	
1学期計				30	中間・期末考査を行う			
2 学期	9	小説を読む(二)	バグダッドの靴磨き	4	・まとまった分量の小説を読解する。 ・作品の背景となっているイラク戦争について理解する。	話す・理解	発問評価 学習課題	
		小説を読む(二)	卒業	3	・物語を場面ごとにわけ、それぞれの場面における登場人物の心情の変化を読み取る。	読む・書く	発問評価 学習課題	
	10	短歌と俳句	折々のうた	6	・近代短歌、俳句の鑑賞のしかたを習得する。 ・作品を味わい、鑑賞分を書く。	関心・話す	発問評価 学習課題	
		新しい視点	記憶のゆがみ	4	・論理的な文章を読解する。 ・経験に学ぶことの重要性を、自己の問題としてとらえる。	関心・読む	発問評価 学習課題	
	11	新しい視点	物語を発現する力	3	・具体例と抽象的な記述の関係を理解する。	関心・理解	発問評価 学習課題	
		小説を読む(三)	山椒魚	4	・すぐれた短編小説のもつ緊密な構成を理解し、鑑賞法を習得する。	関心・理解	発問評価 学習課題	
	12	小説を読む(三)	山月記	5	・漢文脈を駆使した独特の表現を理解する。 ・小説の主題をまとめ発表する。	読む・書く	発問評価 学習課題	
言語活動		情報の探し方	3	・目的や課題に応じてさまざまな情報を収集し、活用する方法を習得する。	読む・書く	発問評価 学習課題		
2学期計				32	中間・期末考査を行う			
3 学期	1	言語活動	研究発表のしかた	4	・研究発表のしかたを習得する。	読む・理解	発問評価 学習課題	
		言語活動	要約のしかた	4	・要約のしかたを習得する。	読む・理解	発問評価 学習課題	
3学期計				8	学年末考査を行う			
自己評価 ()内は達成率 A(80%以上)、B(65%以上) C(40%以上)、D(40%未満)				【次年度の課題】			年間授業時数	70

校長印	教頭印

令和5年度 『現代の国語』 シラバス

県立宮古高等学校

「現代の国語」(1年普通科)			
科目名	国語総合	2単位	教科書
対象	普通科	1年	副教材
『新 現代の国語』 (三省堂) 常用漢字ダブルクリア四訂版(尚文出版)、高校生必修語彙ノート改訂版(桐原書店)、 記入して覚える古典文法クリアノート(尚文出版)、漢文基本ノートα(浜島書店)			

4. 年間指導計画及び授業進度予定表

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動	評価規準
4	導入	1	「言葉と声で表そう」 ●世界を言葉と声で表す	1 写真を見て想像力をはたらかせ、石仏がな んと言っているのか、「せりふ」を考える。 2 気持ちがそれぞれ伝わるように言い方を考 え、実際に声に出す。 3 二人組やグループで、 自然なやりとりになる言 い方を見つける。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、認識や思 考を支える働きがあるこ とを理解すること。 思考力、判断力、表現力 等 書く イ 読み手の理解が得ら れるよう、論理の展開、 情報の分量や重要度な どを考えて、文章の構 成や展開を工夫するこ と。	知識・技能 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 思考・判断・表現 ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要 度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 主体的に学習に取り組む態度 ・ 【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強 い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解したり、 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重 要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫したりすることに 向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しよ うとしている。

月	単元	配当時	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
4 5	1 わかり合うために	8	「伝え合いに大事なことを考える」 ●情報を読み解く	1 「国語に関する世論調査」によると、相手との伝え合い(コミュニケーション)では何が重視されているか考える。 2 相手との伝え合い(コミュニケーション)の中で自分が重視していることは何か、考える。 3 考えたことをまわりの人と話し合う。 ※表現テーマ例集「コミュニケーション」	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。 ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 情報 ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。	知識・技能 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・主張や論拠など情報と情報との関係について理解している。 思考・判断・表現 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
			「届く言葉、届かない言葉」 ●情報を要約する	1 文章を読み、概要を把握する。 2 三つの事例を中心に三段落に分ける。 3 主張と事例の関係を捉え直す。	思考力、判断力、表現力等 読む ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。	主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。
			「わかりあえないことから」 「聞く力」 ●情報を関連づけてまとめる	1 二つの文章を読み、それぞれの内容を要約する。 2 二人の筆者のコミュニケーションに対する考え方の特徴を指摘する。	◆イ 異なる形式で書かれた複数の文章や、図表等を伴う文章を読み、理解したことや解釈したことをまとめて発表したり、他の形式の文章に書き換えたりする。	例)言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解したり、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)ア、読む(1)ア、の場合
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

一学期中間テスト

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
5 6	2 確かな情報を伝えるために	8	「情報はつくられる」 ●情報を吟味する	1 教科書40ページの写真を見て、何の写真かを考え、まわりの人と意見交換する。 2 「情報はつくられる」を読み、「情報はつくられる」とはどういうことか、説明する。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。 情報 オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。 エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。	知識・技能 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。 思考・判断・表現
			「ひとまず、信じない」 ●情報と適切につきあう	1 文章を読み、概要を把握する。 2 「ひとまず、信じない」とあるが、なぜ「ひとまず」なのか説明する。 3 情報と適切につきあう方法について話し合う。 ※学びを深める「情報と身体」		

		<p>「情報を編集し、的確に発表する —パブリックスピーチ」</p> <p>●情報を適切に編集する</p>	<p>1 情報を適切に扱うにはどうすればよいかについて、「情報はつくられる」「ひとまず、信じない」なども参考にしながら考える。</p> <p>2 自分で調べた資料を加えて考えをまとめる。</p> <p>3 まとめた自分の考えを3分間で発表する。</p> <p>※表現テーマ例集「メディア・リテラシー」</p>	<p>思考力、判断力、表現力等 話す・聞く</p> <p>ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。</p> <p>イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。</p> <p>❖ア 自分の考えについてスピーチをしたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、論拠を示して反論したりする。</p> <p>❖エ 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する。</p>	<p>・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。</p> <p>・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。</p> <p>例) 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>※知識及び技能(1)イ、話す・聞く(1)ア、の場合</p>
		「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

一学期期末考査

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ❖言語活動	評価規準
6 7	3 情報を生かすために	8	「人が死なない防災」 ●情報を集めて選ぶ	<p>1 文章を読み、概要を把握する。</p> <p>2 「正常化の偏見」と「認知不協和」について、自分の体験をもとに説明する。</p> <p>3 筆者の考える、災害情報が避難に結びつかない理由を整理する。</p> <p>4 『『逃げる住民』をどうやってつくるのか』という筆者の問いかけに対するあなたの考えを提案する。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方</p> <p>イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。</p> <p>エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用</p>	<p>知識・技能</p> <p>・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。</p> <p>・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を</p>

<p>「減災学をつくる」 ●情報を整理する</p>	<p>1 文章を読み、概要を把握する。 2 減災のためのツールをつくる時に最も大切なことは何か、筆者の考えを説明する。 3 筆者の考えるハザードマップの問題点を、整理する。</p>	<p>法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 情報 エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。</p>	<p>豊かにしている。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。 思考・判断・表現 ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。</p>
<p>「評価した情報をまとめる報告書」 ●情報を作りかえる</p>	<p>1 2種類のハザードマップを比べ、気づいた点をメモする。(適宜「人が死なない防災」「減災学をつくる」における筆者の主張を確かめさせる。) 2 ハザードマップにタイムライン(防災行動計画)を加えたものが新たに提案されたことで、見た人々の避難に対する意識はどう変化するか、調べる。 3 「学習活動のヒント」を参考に報告書(またはその下書き)を書く。 ※表現テーマ例集「共生・環境」 ※学びを深める「情報の『メタ』化」</p>	<p>思考力、判断力、表現力等 書く ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。 ❖ウ 調べたことを整理して、報告書や説明資料などにまとめる。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+[粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている]。 例)話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)イ、書く(1)ア、の場合</p>
<p>「振り返る」</p>	<p>1 適宜、課題に取り組む。</p>		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動	評価規準
9 ～ 10	4 よりよい読み手になるために	8	「読むことのレッスン」 ●情報を分析・評価する	1 文章を読み、概要を把握する。 2 事例を比較して述べる方法の、長所と短所について考える。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すと同時に、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	知識・技能 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すと同時に、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。
			「水の東西」 ●説明の方法を理解する	1 この文章で筆者が、何と何を、どのように比較しているかに注意して読む。 2 それぞれの部分で、筆者の主張がどのような事実に基づいているかを整理・分析する。 ※表現テーマ例集「文化」	情報 イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。	思考・判断・表現 ・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。
			「コインは円形か」 ●さまざまな視点から情報を捉える	1 文章を読み、概要を把握する。 2 文章中から「問題」「結論」「理由」の要素を読み取り、筆者の主張をつかむ。 3 筆者の示す「理由」は、どのような事例に支えられているか、まとめる。	思考力、判断力、表現力等 読む イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。 ◆ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、引用や要約などをしながら論述したり批評したりする。	主体的に学習に取り組む態度 ・ [知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+[粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている] 。 例) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)ウ、読む(1)イ、の場合
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

二学期中間考査

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
10 ～ 11	5 場 に 応 じ て 伝 え る た め に	8	「中身当てクイズ」 ●根拠を明確にして考えを伝える	1 「中身当てクイズ」の概要を確認する。 2 各自でクイズの答えを考える。 3 グループやクラスでクイズの答えとその根拠を交流する。 ※学びを深める「マルジャーナの知恵」	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。 エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 情報 ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。	知識・技能 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。
			「読み比べる 一海ガメの無念」 ●表現の仕方に注意する	1 AとBの文章を読み比べ、それぞれの文章の伝えたいことはどんなことか、各自で考える。 2 それぞれの文章の特徴を、構成と表現に着目して比較して表などにまとめ、グループなどで報告し合う。	思考力、判断力、表現力等 話す・聞く ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。 エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。	思考・判断・表現 ・話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。 ・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。
			「構成や展開を意識して発表する 一プレゼンテーション」 ●相手を意識して自分の考えを伝える	1 聞き手を意識して、五枚のフリップを使った方法を確認する。 2 教科書の「学習活動2」にある問題などを参考にしてテーマを設定し、プレゼンテーションのフリップと発表原稿を作成する。 ※表現テーマ例集「科学技術」	主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+[粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている]。 例)話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)イ、話す・聞く(1)ウ、の場合	
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動	評価規準
11 ～ 12	6 説得力を高めるために	8	「折々のことば」 ●引用の目的やはたらきを理解する	1 文章を読み、概要を把握する。 2 筆者が芦田愛菜さんの文章を引用した意図を、推論する。 3 引用の効果をふまえて自分の「折々のことば」を見つけ、記録する。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。	知識・技能 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 ・引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使っている。
			「宝探してみたいに本の世界へ入っていきます」 ●説明の仕方を考える	1 文章を読み、概要を把握する。 2 筆者の「読書の楽しみ方」や「本との出会い方」をまとめよう。 ※学びを深める「ぐうぜん、うたがう、読書のススメ」	情報 オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。 思考力、判断力、表現力等 書く イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。 ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。	思考・判断・表現 ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。
			「情報を整理して推薦する — ブックトーク原稿」 ●情報を活用する	1 自分の好きな本やおもしろいと思った本の紹介を書こう。 2 「宝探してみたいに本の世界へ入っていきます」を参考に、実際に「本に触れる」ことをテーマとした提案をする。 3 次の手順を参考に、実際にブックトークをする。 ※表現テーマ例集「読書」	思考力、判断力、表現力等 書く イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。 ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。 ◆イ 読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文などを書いたり、書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする。	主体的に学習に取り組む態度 ・ 【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+【粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている】。 例) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)ウ、書く(1)イ、の場合
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動	評価規準
1 ～ 2	7 説得力を高めるために	8	「檻の中の“街”」 ●ある事実をもとに未知の事柄を押し量る	1 教科書152～153ページの写真を見て、感じたこと(写っているもの、人々の生活など)を書き出す。 2 154ページ以降の文章を読み、写真で伝わること、文章で伝わること、写真と文章で伝わること、それぞれの違いを指摘する。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 カ 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。 情報 ウ 推論の仕方を理解し使うこと。 オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。	知識・技能 ・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。 ・推論の仕方を理解し使っている。 ・引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使っている。
			「小さな哲学者」 ●情報を関係づけてまとめる	1 文章を読み、概要を把握する。 2 筆者の伝えたかったことは何か、まとめよう。 3 「檻の中の“街”」と読み比べ、表現上の特色を指摘する。	思考力、判断力、表現力等 話す・聞く エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。 オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。	思考・判断・表現 ・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫している。
			「多様な意見に触れるーパネルディスカッション」 ●伝えることの意味や方法を理解する	1 さまざまな意見を出し合う話し合いの一つとしてのパネルディスカッションの方法について知る。 2 「パネルディスカッションの例」にあるパネラーの立場で、「檻の中の街」「小さな哲学者」の筆者の伝え方を評価する。 3 「パネルディスカッションの例」にある手順を参考に、司会者となってさまざまな意見を出し合う話し合いを行う。 ※表現テーマ例集「国際理解」	思考力、判断力、表現力等 話す・聞く エ 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する。	主体的に学習に取り組む態度 ・ 【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+【粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている】。 例)比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使ったり、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫したりすることに向け粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)カ、話す・聞く(1)エ、の場合
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動	評価規準
2 3	8 よりよい書き手になるために	8	「ありのままの世界は見えない」 「ものとことば」 ●事例と主張の関係を整理する	1 教科書176ページの絵が何の絵に見えたか、隣の人に説明し合い、2通りの見方があることを認識する。 2 「ありのままの世界は見えない」で提示されている筆者の考えを、事例をもとに整理する。 3 「ものとことば」を読み、「ありのままの世界は見えない」と読み比べ、共通しているテーマはどのようなことか見つける。 ※学びを深める「真実はひとつじゃない」	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。 カ 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。 情報 ウ 推論の仕方を理解し使うこと。 思考力、判断力、表現力等 書く ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。 エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。 ◆ ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する。	知識・技能 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 ・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。 ・推論の仕方を理解し使っている。 思考・判断・表現 ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。 ・目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 主体的に学習に取り組む態度 ・ [知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+[粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている] 。 例) 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解したり、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)オ、書く(1)エ、の場合
			「情報を活用して説得的に書く—小論文」 ●自分なりの考えをまとめる	1 共通するテーマについて書かれた複数の文章から考えたことを、具体的な事例を用いて書く。	エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。	
			「書いた文章を批評し合う—推敲」 ●意図が十分に伝わる書き方を探る	1 書いた文章を批評し合う。 ※表現テーマ例集「認識・言語」		
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

総授業時数 70時間

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◇言語活動	評価規準
3	まとめ	2	「言葉で世界を豊かに」 ●世界を言葉で広げる	<p>1 教科書204～205ページのイラストを見て、感じたことや考えたことをメモする。</p> <p>2 イラストにタイトルとコピーをつける。</p> <p>3 感じたことや考えたことをまわりの人と交流し、タイトルやコピーについてコメントし合う。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。</p> <p>思考力、判断力、表現力等 書く イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫すること。</p>	<p>知識・技能 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。</p> <p>例) 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解したり、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p>

『新 現代の国語』 年間学習指導計画

校長印	教頭印

令和5年度シラバス

県立宮古高等学校

「現代の国語」(1年文理探究科)				国語教科担当氏名	印
科目名	国語	2単位	教科書	『新 現代の国語』 (三省堂)	
対象	文理・探究科	1年	副教材	常用漢字ダブルクリア四訂版(尚文出版)、高校生必修語彙ノート改訂版(桐原書店)、基礎から学ぶ解析古典文法、演習ノート(桐原書店)、漢文必携(桐原書店)	

1. 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 指導内容及び言語活動

【知識及び技能】

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。
- イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。
- ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。
- エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
- オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。
- カ 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。

(2) 情報の扱い方に関する事項

- ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。
- イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。
- ウ 推論の仕方を理解し使うこと。
- エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。
- オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。

(3) 我が国の言語文化に関する事項

- ア 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。

【思考力・判断力・表現力】

A 話すこと・聞くこと

(1)

- ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。
- イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。
- ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。
- エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。

オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。

(2)

ア 自分の考えについてスピーチをしたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、論拠を示して反論したりする活動。

イ 報告や連絡、案内などのために、資料に基づいて必要な事柄を話したり、それらを聞いて、質問したり批評したりする活動。

ウ 話し合いの目的に応じて結論を得たり、多様な考えを引き出したりするための議論や討論を、他の議論や討論の記録などを参考にしながら行う活動。

エ 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する活動。

他 上記以外の言語活動

B 書くこと

(1)

ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。

イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫すること。

ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。

エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。

(2)

ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する活動。

イ 読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文などを書いたり、書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする活動

ウ 調べたことを整理して、報告書や説明資料などにまとめる活動。

エ 上記以外の言語活動

C 読むこと

(1)

ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。

イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。

(2)

ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、引用や要約などをしながら論述したり批評したりする活動。

イ 異なる形式で書かれた複数の文章や、図表等を伴う文章を読み、理解したことや解釈したことをまとめて発表したり、他の形式の文章に書き換えたりする活動。

他 上記以外の言語活動

3. 評価基準・評価方法

各単元の評価規準(3観点からA・B・Cで評価する)

知:「知識・技能」 思:「思考・判断・表現」 態:「主体的に学習に取り組む態度」

評価方法・評価材料

①観察、点検:行動の観察、記述の点検

②確認:行動の確認、記述の確認

③分析:行動の分析、記述の分析

知識・技能:ワークシート、ノート、身についた知識・技能を使う場面、ペーパーテスト等

思考・判断・表現:ワークシート、ノート、レポートの記述、発表、話し合いの内容、ポートフォリオ、ペーパーテスト等

主体的に学習に取り組む態度:ワークシート、ノート、レポートの記述、発言、行動観察、ポートフォリオ等

4. 年間指導計画及び授業進度予定表

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
4	導入	1	「言葉と声で表そう」 ●世界を言葉と声で表す	<p>1 写真を見て想像力をはたらかせ、石仏がなんと言っているのか、「せりふ」を考える。</p> <p>2 気持ちがそれぞれ伝わるように言い方を考え、実際に声に出す。</p> <p>3 二人組やグループで、自然なやりとりになる言い方を見つける。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。</p> <p>思考力、判断力、表現力等 書く イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫すること。</p>	<p>知識・技能 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。</p> <p>例) 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解したり、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p>

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
4 ～ 5	1 わかり合うために	8	「伝え合いに大事なことを考える」 ●情報を読み解く	1 「国語に関する世論調査」によると、相手との伝え合い(コミュニケーション)では何が重視されているか考える。 2 相手との伝え合い(コミュニケーション)の中で自分が重視していることは何か、考える。 3 考えたことをまわりの人と話し合う。 ※表現テーマ例集「コミュニケーション」	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。 ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 情報 ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。	知識・技能 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・主張や論拠など情報と情報との関係について理解している。
			「届く言葉、届かない言葉」 ●情報を要約する	1 文章を読み、概要を把握する。 2 三つの事例を中心に三段落に分ける。 3 主張と事例の関係を捉え直す。	思考力、判断力、表現力等 読む ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。	思考・判断・表現 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
			「わかりあえないことから」 「聞く力」 ●情報を関連づけてまとめる	1 二つの文章を読み、それぞれの内容を要約する。 2 二人の筆者のコミュニケーションに対する考え方の特徴を指摘する。	思考力、判断力、表現力等 読む ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。 ◆イ 異なる形式で書かれた複数の文章や、図表等を伴う文章を読み、理解したことや解釈したことをまとめて発表したり、他の形式の文章に書き換えたりする。	主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例)言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解したり、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)ア、読む(1)ア、の場合
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
5 6	2 確かな情報を伝えるために	8	「情報はつくられる」 ●情報を吟味する	1 教科書40ページの写真を見て、何の写真かを考え、まわりの人と意見交換する。 2 「情報はつくられる」を読み、「情報はつくられる」とはどういうことか、説明する。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。 オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。 情報 エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。 思考力、判断力、表現力等 話す・聞く ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。 イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。 ◆ア 自分の考えについてスピーチをしたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、論拠を示して反論したりする。 ◆エ 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する。	知識・技能 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。 思考・判断・表現 ・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 ・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。 主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例)話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)イ、話す・聞く(1)ア、の場合
			「ひとまず、信じない」 ●情報と適切につきあう	1 文章を読み、概要を把握する。 2 「ひとまず、信じない」とあるが、なぜ「ひとまず」なのか説明する。 3 情報と適切につきあう方法について話し合う。 ※学びを深める「情報と身体」		
			「情報を編集し、的確に発表する —パブリックスピーチ」 ●情報を適切に編集する	1 情報を適切に扱うにはどうすればよいかについて、「情報はつくられる」「ひとまず、信じない」なども参考にしながら考える。 2 自分で調べた資料を加えて考えをまとめる。 3 まとめた自分の考えを3分間で発表する。 ※表現テーマ例集「メディア・リテラシー」		
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
6 ～ 7	3 情報を生かすために	8	「人が死なない防災」 ●情報を集めて選ぶ	1 文章を読み、概要を把握する。 2 「正常化の偏見」と「認知不協和」について、自分の体験をもとに説明する。 3 筆者の考える、災害情報が避難に結びつかない理由を整理する。 4 『逃げる住民』をどうやってつくるのか」という筆者の問いかけに対するあなたの考えを提案する。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。 エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	知識・技能 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
			「減災学をつくる」 ●情報を整理する	1 文章を読み、概要を把握する。 2 減災のためのツールをつくる時に最も大切なことは何か、筆者の考えを説明する。 3 筆者の考えるハザードマップの問題点を、整理する。	情報 エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。
			「評価した情報をまとめる — 報告書」 ●情報を作りかえる	1 2種類のハザードマップを比べ、気づいた点をメモする。(適宜「人が死なない防災」「減災学をつくる」における筆者の主張を確かめさせる。) 2 ハザードマップにタイムライン(防災行動計画)を加えたものが新たに提案されたことで、見た人々の避難に対する意識はどう変化するか、調べる。 3 「学習活動のヒント」を参考に報告書(またはその下書き)を書く。 ※表現テーマ例集「共生・環境」 ※学びを深める「情報の『メタ』化」	思考力、判断力、表現力等 書く ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。 ◆ウ 調べたことを整理して、報告書や説明資料などにまとめる。	思考・判断・表現 ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。 主体的に学習に取り組む態度 ・ 【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+【粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている】。 例)話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)イ、書く(1)ア、の場合
			「振り返り」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
9 ～ 10	4 よりよい読み手になるために	8	「読むことのレッスン」 ●情報を分析・評価する	1 文章を読み、概要を把握する。 2 事例を比較して述べる方法の、長所と短所について考える。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すと同時に、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	知識・技能 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すと同時に、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。
			「水の東西」 ●説明の方法を理解する	1 この文章で筆者が、何と何を、どのように比較しているかに注意して読む。 2 それぞれの部分で、筆者の主張がどのような事実に基づいているかを整理・分析する。 ※表現テーマ例集「文化」	情報 イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。	思考・判断・表現 ・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。
			「コインは円形か」 ●さまざまな視点から情報を捉える	1 文章を読み、概要を把握する。 2 文章中から「問題」「結論」「理由」の要素を読み取り、筆者の主張をつかむ。 3 筆者の示す「理由」は、どのような事例に支えられているか、まとめる。	思考力、判断力、表現力等 読む イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。 ◆ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、引用や要約などをしながら論述したり批評したりする。	主体的に学習に取り組む態度 ・ [知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+[粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている] 。 例) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)ウ、読む(1)イ、の場合
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
10 ～ 11	5 場 に 応 じ て 伝 え る た め に	8	「中身当てクイズ」 ●根拠を明確にして考えを伝える	1 「中身当てクイズ」の概要を確認する。 2 各自でクイズの答えを考える。 3 グループやクラスでクイズの答えとその根拠を交流する。 ※学びを深める「マルジャーナの知恵」	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。 エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	知識・技能 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。
			「読み比べる 一海ガメの無念」 ●表現の仕方に注意する	1 AとBの文章を読み比べ、それぞれの文章の伝えたいことはどんなことか、各自で考える。 2 それぞれの文章の特徴を、構成と表現に着目して比較して表などにまとめ、グループなどで報告し合う。	情報 ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。	思考・判断・表現 ・話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。 ・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。
			「構成や展開を意識して発表する ープレゼンテーション」 ●相手を意識して自分の考えを伝える	1 聞き手を意識して、五枚のフリップを使った方法を確認する。 2 教科書の「学習活動2」にある問題などを参考にしてテーマを設定し、プレゼンテーションのフリップと発表原稿を作成する。 ※表現テーマ例集「科学技術」	思考力、判断力、表現力等 話す・聞く ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。 エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。	主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例)話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。	知識及び技能(1)イ、話す・聞く(1)ウ、の場合	

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
11 ～ 12	6 説得力を高めるために	8	「折々のことば」 ●引用の目的やはたらきを理解する	1 文章を読み、概要を把握する。 2 筆者が芦田愛菜さんの文章を引用した意図を、推論する。 3 引用の効果をふまえて自分の「折々のことば」を見つけ、記録する。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。	知識・技能 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 ・引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使っている。
			「宝探してみたいに本の世界へ入っていきます」 ●説明の仕方を考える	1 文章を読み、概要を把握する。 2 筆者の「読書の楽しみ方」や「本との出会い方」をまとめよう。 ※学びを深める「ぐうぜん、うたがう、読書のススメ」	情報 オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。 思考力、判断力、表現力等 書く イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。	思考・判断・表現 ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。
			「情報を整理して推薦する — ブックトーク原稿」 ●情報を活用する	1 自分の好きな本やおもしろいと思った本の紹介を書く。 2 「宝探してみたいに本の世界へ入っていきます」を参考に、実際に「本に触れる」ことをテーマとした提案をする。 3 次の手順を参考に、実際にブックトークをする。 ※表現テーマ例集「読書」	ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。 ◆イ 読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文などを書いたり、書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする。	主体的に学習に取り組む態度 ・ 〔知識・技能の評価規準〕+〔思考・判断・表現の評価規準〕+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)ウ、書く(1)イ、の場合
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
1 ～ 2	7 説得力を高めるために	8	「檻の中の“街”」 ●ある事実をもとに未知の事柄を推し量る	1 教科書152～153ページの写真を見て、感じたこと(写っているもの、人々の生活など)を書き出す。 2 154ページ以降の文章を読み、写真で伝わること、文章で伝わること、写真と文章で伝わること、それぞれの違いを指摘する。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 カ 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。 情報 ウ 推論の仕方を理解し使うこと。 オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。	知識・技能 ・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。 ・推論の仕方を理解し使っている。 ・引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使っている。
			「小さな哲学者」 ●情報を関係づけてまとめる	1 文章を読み、概要を把握する。 2 筆者の伝えたかったことは何か、まとめよう。 3 「檻の中の“街、”と読み比べ、表現上の特色を指摘する。	思考力、判断力、表現力等 話す・聞く エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。 オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。	思考・判断・表現 ・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫している。
			「多様な意見に触れる ―パネルディスカッション」 ●伝えることの意味や方法を理解する	1 さまざまな意見を出し合う話し合いの一つとしてのパネルディスカッションの方法について知る。 2 「パネルディスカッションの例」にあるパネラーの立場で、「檻の中の街」「小さな哲学者」の筆者の伝え方を評価する。 3 「パネルディスカッションの例」にある手順を参考に、司会者となってさまざまな意見を出し合う話し合いを行う。 ※表現テーマ例集「国際理解」	思考力、判断力、表現力等 話す・聞く エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。 オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。 ◆ウ 話し合いの目的に応じて結論を得たり、多様な考えを引き出したりするための議論や討論を、他の議論や討論の記録などを参考にすること。 ◆エ 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する。	主体的に学習に取り組む態度 ・ [知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+[粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている] 。 例)比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使ったり、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)カ、話す・聞く(1)エ、の場合
		「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。			

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
2 ～ 3	8 よりよい書き手になるために	8	「ありのままの世界は見えない」 「ものとことば」 ●事例と主張の関係を整理する	1 教科書176ページの絵が何の絵に見えたか、隣の人に説明し合い、2通りの見方があることを認識する。 2 「ありのままの世界は見えない」で提示されている筆者の考えを、事例をもとに整理する。 3 「ものとことば」を読み、「ありのままの世界は見えない」と読み比べ、共通しているテーマはどのようなことか見つける。 ※学びを深める「真実はひとつじゃない」	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。 カ 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。 情報 ウ 推論の仕方を理解し使うこと。 思考力、判断力、表現力等 書く ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。 エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。 ◆ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する。	知識・技能 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 ・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。 ・推論の仕方を理解し使っている。 思考・判断・表現 ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。 ・目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+[粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている]。 例) 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解したり、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)オ、書く(1)エ、の場合
			「情報を活用して説得的に書く—小論文」 ●自分なりの考えをまとめる	1 共通するテーマについて書かれた複数の文章から考えたことを、具体的な事例を用いて書く。	ア 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。	
			「書いた文章を批評し合う—推敲」 ●意図が十分に伝わる書き方を探る	1 書いた文章を批評し合う。 ※表現テーマ例集「認識・言語」		
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
3	まとめ	2	「言葉で世界を豊かに」 ●世界を言葉で広げる	1 教科書204～205ページのイラストを見て、感じたことや考えたことをメモする。 2 イラストにタイトルとコピーをつける。 3 感じたことや考えたことをまわりの人と交流し、タイトルやコピーについてコメントし合う。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。 思考力、判断力、表現力等 書く イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫すること。	知識・技能 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 思考・判断・表現 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫している。 主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解したり、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。
						年間総授業時数
						70時間

校長印	教頭印

『新 現代の国語』 年間学習指導計画

令和5年度シラバス

県立宮古高等学校

「現代の国語」(1年普通科)				国語科教科担当	印
科目名	国語総合	2単位	教科書	『新 現代の国語』 (三省堂)	
対象	普通科	1年	副教材	常用漢字ダブルクリア四訂版(尚文出版)、高校生必修語彙ノート改訂版(桐原書店)、 記入して覚える古典文法クリアノート(尚文出版)、漢文基本ノートα(浜島書店)	

1. 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 指導内容及び言語活動

【知識及び技能】

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。
- イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。
- ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。
- エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
- オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。
- カ 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。

(2) 情報の扱い方に関する事項

- ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。
- イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。
- ウ 推論の仕方を理解し使うこと。
- エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。
- オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。

(3) 我が国の言語文化に関する事項

- ア 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。

【思考力・判断力・表現力】

A 話すこと・聞くこと

(1)

(1)

- ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。
- イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。
- ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。

- エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。
- オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。

(2)

- ア 自分の考えについてスピーチをしたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、論拠を示して反論したりする活動。
- イ 報告や連絡、案内などのために、資料に基づいて必要な事柄を話したり、それらを聞いて、質問したり批評したりする活動。
- ウ 話し合いの目的に応じて結論を得たり、多様な考えを引き出したりするための議論や討論を、他の議論や討論の記録などを参考にしながら行う活動。

エ 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する活動。

他 上記以外の言語活動

B 書くこと

(1)

- ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。
- イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫すること。
- ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。
- エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。

(2)

- ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する活動。
- イ 読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文などを書いたり、書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする活動
- ウ 調べたことを整理して、報告書や説明資料などにまとめる活動。
- エ 上記以外の言語活動

C 読むこと

(1)

- ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。
- イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。

(2)

- ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、引用や要約などをしながら論述したり批評したりする活動。
- イ 異なる形式で書かれた複数の文章や、図表等を伴う文章を読み、理解したことや解釈したことをまとめて発表したり、他の形式の文章に書き換えたりする活動。
- 他 上記以外の言語活動

3. 評価基準・評価方法

各単元の評価規準(3観点をA・B・Cで評価する)

知:「知識・技能」 思:「思考・判断・表現」 態:「主体的に学習に取り組む態度」

評価方法・評価材料

- ①観察、点検:行動の観察、記述の点検
- ②確認:行動の確認、記述の確認
- ③分析:行動の分析、記述の分析

知識・技能:ワークシート、ノート、身についた知識・技能を使う場面、ペーパーテスト等

思考・判断・表現:ワークシート、ノート、レポートの記述、発表、話し合いの内容、ポートフォリオ、ペーパーテスト等

主体的に学習に取り組む態度:ワークシート、ノート、レポートの記述、発言、行動観察、ポートフォリオ等

4. 年間指導計画及び授業進度予定表

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◇言語活動	評価規準
4	導入	1	「言葉と声で表そう」 ●世界を言葉と声で表す	<p>1 写真を見て想像力をはたらかせ、石仏がなんと言っているのか、「せりふ」を考える。</p> <p>2 気持ちがそれぞれ伝わるように言い方を考え、実際に声に出す。</p> <p>3 二人組やグループで、自然なやりとりになる言い方を見つける。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。</p> <p>思考力、判断力、表現力等 書く イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫すること。</p>	<p>知識・技能 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。</p> <p>例) 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解したり、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p>

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
4 ～ 5	1 わ か り 合 う た め に	8	「伝え合いに大事なことを考える」 ●情報を読み解く	1 「国語に関する世論調査」によると、相手との伝え合い(コミュニケーション)では何が重視されているか考える。 2 相手との伝え合い(コミュニケーション)の中で自分が重視していることは何か、考える。 3 考えたことをまわりの人と話し合う。 ※表現テーマ例集「コミュニケーション」	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。 ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 情報 ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。	知識・技能 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・主張や論拠など情報と情報との関係について理解している。
			「届く言葉、届かない言葉」 ●情報を要約する	1 文章を読み、概要を把握する。 2 三つの事例を中心に三段落に分ける。 3 主張と事例の関係を捉え直す。	思考力、判断力、表現力等 読む ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。	思考・判断・表現 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
			「わかりあえないことから」 「聞く力」 ●情報を関連づけてまとめる	1 二つの文章を読み、それぞれの内容を要約する。 2 二人の筆者のコミュニケーションに対する考え方の特徴を指摘する。	思考力、判断力、表現力等 読む ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。 ◆イ 異なる形式で書かれた複数の文章や、図表等を伴う文章を読み、理解したことや解釈したことをまとめて発表したり、他の形式の文章に書き換えたりする。	主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例)言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解したり、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)ア、読む(1)ア、の場合
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		
一学期中間テスト						

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
5 6	2 確かな情報を伝えるために	8	<p>「情報はつくられる」 ●情報を吟味する</p> <p>「ひとまず、信じない」 ●情報と適切につきあう</p> <p>「情報を編集し、的確に発表する —パブリックスピーチ」 ●情報を適切に編集する</p>	<p>1 教科書40ページの写真を見て、何の写真かを考え、まわりの人と意見交換する。</p> <p>2 「情報はつくられる」を読み、「情報はつくられる」とはどういうことか、説明する。</p> <p>1 文章を読み、概要を把握する。</p> <p>2 「ひとまず、信じない」とあるが、なぜ「ひとまず」なのか説明する。</p> <p>3 情報と適切につきあう方法について話し合う。</p> <p>※学びを深める「情報と身体」</p> <p>1 情報を適切に扱うにはどうすればよいかについて、「情報はつくられる」「ひとまず、信じない」なども参考にしながら考える。</p> <p>2 自分で調べた資料を加えて考えをまとめる。</p> <p>3 まとめた自分の考えを3分間で発表する。</p> <p>※表現テーマ例集「メディア・リテラシー」</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。 オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。 情報 エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。</p> <p>思考力、判断力、表現力等 話す・聞く ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。 イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。</p> <p>◆ア 自分の考えについてスピーチをしたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、論拠を示して反論したりする。 ◆エ 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する。</p>	<p>知識・技能 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。</p> <p>思考・判断・表現 ・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 ・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+【粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている】。 例)話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>※知識及び技能(1)イ、話す・聞く(1)ア、の場合</p>
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		
一学期期末考査						

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動	評価規準
6 ～ 7	3 情報を生かすために	8	「人が死なない防災」 ●情報を集めて選ぶ	1 文章を読み、概要を把握する。 2 「正常化の偏見」と「認知不協和」について、自分の体験をもとに説明する。 3 筆者の考える、災害情報が避難に結びつかない理由を整理する。 4 『『逃げる住民』をどうやってつくるのか』という筆者の問いかけに対するあなたの考えを提案する。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。 エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	知識・技能 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
			「減災学をつくる」 ●情報を整理する	1 文章を読み、概要を把握する。 2 減災のためのツールをつくる時に最も大切なことは何か、筆者の考えを説明する。 3 筆者の考えるハザードマップの問題点を、整理する。	情報 エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。
			「評価した情報をまとめる — 報告書」 ●情報を作りかえる	1 2種類のハザードマップを比べ、気づいた点をメモする。(適宜「人が死なない防災」「減災学をつくる」における筆者の主張を確かめさせる。) 2 ハザードマップにタイムライン(防災行動計画)を加えたものが新たに提案されたことで、見た人々の避難に対する意識はどう変化するか、調べる。 3 「学習活動のヒント」を参考に報告書(またはその下書き)を書く。 ※表現テーマ例集「共生・環境」 ※学びを深める「情報の『メタ』化」	思考力、判断力、表現力等 書く ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。 ◆ウ 調べたことを整理して、報告書や説明資料などにまとめる。	思考・判断・表現 ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+【粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている】。 例)話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)イ、書く(1)ア、の場合
			「振り返り」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動	評価規準
9 ～ 10	4 よりよい読み手になるために	8	「読むことのレッスン」 ●情報を分析・評価する	1 文章を読み、概要を把握する。 2 事例を比較して述べる方法の、長所と短所について考える。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すと同時に、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	知識・技能 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すと同時に、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。
			「水の東西」 ●説明の方法を理解する	1 この文章で筆者が、何と何を、どのように比較しているかに注意して読む。 2 それぞれの部分で、筆者の主張がどのような事実に基づいているかを整理・分析する。 ※表現テーマ例集「文化」	情報 イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。	思考・判断・表現 ・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。
			「コインは円形か」 ●さまざまな視点から情報を捉える	1 文章を読み、概要を把握する。 2 文章中から「問題」「結論」「理由」の要素を読み取り、筆者の主張をつかむ。 3 筆者の示す「理由」は、どのような事例に支えられているか、まとめる。	思考力、判断力、表現力等 読む イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。 ◆ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、引用や要約などをしながら論述したり批評したりする。	主体的に学習に取り組む態度 ・ [知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+[粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている] 。 例) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)ウ、読む(1)イ、の場合
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

二学期中間考査

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
10 ～ 11	5 場 に 応 じ て 伝 え る た め に	8	「中身当てクイズ」 ●根拠を明確にして考えを伝える	1 「中身当てクイズ」の概要を確認する。 2 各自でクイズの答えを考える。 3 グループやクラスでクイズの答えとその根拠を交流する。 ※学びを深める「マルジャーナの知恵」	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。 エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すと同時に、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 情報 ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。	知識・技能 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すと同時に、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。
			「読み比べる 一海ガメの無念」 ●表現の仕方に注意する	1 AとBの文章を読み比べ、それぞれの文章の伝えたいことはどんなことか、各自で考える。 2 それぞれの文章の特徴を、構成と表現に着目して比較して表などにまとめ、グループなどで報告し合う。	思考力、判断力、表現力等 話す・聞く ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。 エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。	思考・判断・表現 ・話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。 ・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。
			「構成や展開を意識して発表する 一プレゼンテーション」 ●相手を意識して自分の考えを伝える	1 聞き手を意識して、五枚のフリップを使った方法を確認する。 2 教科書の「学習活動2」にある問題などを参考にしてテーマを設定し、プレゼンテーションのフリップと発表原稿を作成する。 ※表現テーマ例集「科学技術」	主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+[粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている]。 例)話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)イ、話す・聞く(1)ウ、の場合	
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動	評価規準
11 ～ 12	6 説得力を高めるために	8	「折々のことば」 ●引用の目的やはたらきを理解する	1 文章を読み、概要を把握する。 2 筆者が芦田愛菜さんの文章を引用した意図を、推論する。 3 引用の効果をふまえて自分の「折々のことば」を見つけ、記録する。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。	知識・技能 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 ・引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使っている。
			「宝探してみたいに本の世界へ入っていきます」 ●説明の仕方を考える	1 文章を読み、概要を把握する。 2 筆者の「読書の楽しみ方」や「本との出会い方」をまとめよう。 ※学びを深める「ぐうぜん、うたがう、読書のススメ」	情報 オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。 思考力、判断力、表現力等 書く イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。	思考・判断・表現 ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。
			「情報を整理して推薦する — ブックトーク原稿」 ●情報を活用する	1 自分の好きな本やおもしろいと思った本の紹介を書こう。 2 「宝探してみたいに本の世界へ入っていきます」を参考に、実際に「本に触れる」ことをテーマとした提案をする。 3 次の手順を参考に、実際にブックトークをする。 ※表現テーマ例集「読書」	思考力、判断力、表現力等 書く ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。 ◆イ 読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文などを書いたり、書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする。	主体的に学習に取り組む態度 ・ 【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+【粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている】。 例) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)ウ、書く(1)イ、の場合
		「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。			

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動	評価規準
1 ～ 2	7 説得力を高めるために	8	「檻の中の“街”」 ●ある事実をもとに未知の事柄を押し量る	1 教科書152～153ページの写真を見て、感じたこと(写っているもの、人々の生活など)を書き出す。 2 154ページ以降の文章を読み、写真で伝わること、文章で伝わること、写真と文章で伝わること、それぞれの違いを指摘する。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 カ 比喩、例示、言い換えなどの修辭や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。 情報 ウ 推論の仕方を理解し使うこと。 オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。	知識・技能 ・比喩、例示、言い換えなどの修辭や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。 ・推論の仕方を理解し使っている。 ・引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使っている。
			「小さな哲学者」 ●情報を関係づけてまとめる	1 文章を読み、概要を把握する。 2 筆者の伝えたかったことは何か、まとめよう。 3 「檻の中の“街、”と読み比べ、表現上の特色を指摘する。	思考力、判断力、表現力等 話す・聞く エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。 オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。	思考・判断・表現 ・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫している。
			「多様な意見に触れる ―パネルディスカッション」 ●伝えることの意味や方法を理解する	1 さまざまな意見を出し合う話し合いの一つとしてのパネルディスカッションの方法について知る。 2 「パネルディスカッションの例」にあるパネラーの立場で、「檻の中の街」「小さな哲学者」の筆者の伝え方を評価する。 3 「パネルディスカッションの例」にある手順を参考に、司会者となってさまざまな意見を出し合う話し合いを行う。 ※表現テーマ例集「国際理解」	思考力、判断力、表現力等 話す・聞く エ 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する。	主体的に学習に取り組む態度 ・ 【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+【粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている】。 例)比喩、例示、言い換えなどの修辭や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使ったり、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫したりすることに向け粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)カ、話す・聞く(1)エ、の場合
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

学年末考査

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動	評価規準
2 3	8 よりよい書き手になるために	8	<p>「ありのままの世界は見えない」 「ものとことば」 ●事例と主張の関係を整理する</p>	<p>1 教科書176ページの絵が何の絵に見えたか、隣の人に説明し合い、2通りの見方があることを認識する。</p> <p>2 「ありのままの世界は見えない」で提示されている筆者の考えを、事例をもとに整理する。</p> <p>3 「ものとことば」を読み、「ありのままの世界は見えない」と読み比べ、共通しているテーマはどのようなことか見つける。</p> <p>※学びを深める「真実はひとつじゃない」</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。 カ 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。 情報 ウ 推論の仕方を理解し使うこと。</p> <p>思考力、判断力、表現力等 書く ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。 エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。</p> <p>◆ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する。</p>	<p>知識・技能 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 ・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。 ・推論の仕方を理解し使っている。</p> <p>思考・判断・表現 ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。 ・目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+[粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている]。 例) 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解したり、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>※知識及び技能(1)オ、書く(1)エ、の場合</p>
			「情報を活用して説得的に書く—小論文」 ●自分なりの考えをまとめる	1 共通するテーマについて書かれた複数の文章から考えたことを、具体的な事例を用いて書く。		
			「書いた文章を批評し合う—推敲」 ●意図が十分に伝わる書き方を探る	1 書いた文章を批評し合う。 ※表現テーマ例集「認識・言語」		
			「振り返る」	1 適宜、課題に取り組む。		

総授業時数 70時間

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◇言語活動	評価規準
3	まとめ	2	「言葉で世界を豊かに」 ●世界を言葉で広げる	<p>1 教科書204～205ページのイラストを見て、感じたことや考えたことをメモする。</p> <p>2 イラストにタイトルとコピーをつける。</p> <p>3 感じたことや考えたことをまわりの人と交流し、タイトルやコピーについてコメントし合う。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。</p> <p>思考力、判断力、表現力等 書く イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫すること。</p>	<p>知識・技能 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。</p> <p>例) 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解したり、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p>

令和4年度年間指導計画:「国語基礎」				国語科教科担当者氏名 池村 彩華 印	
科目名	国語基礎	2単位	教科書	なし(学校設置科目)	
対象	普通科	3年(選択A)	教材	ワークシート《参考》話す・聞くの実践トレーニング(日本語研究所)・日本語検定公式テキスト「日本語」初級・日本語検定公式テキスト「日本語」中級・日本語検定3級公式練習問題集 改訂版・日本語検定2級公式練習問題集 改訂版(以上、東京書籍)、必携国語常識ベーシック(教研出版)、国語必携ライブパフォーマンス演習(尚文出版)	

校長印	教頭印

1. 学習の到達目標

国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。

2. 指導内容

- ア 「聞く・話す・読む・書く」ことのトレーニングを通して、相手の伝える内容を正しく理解し、自らの考えを正しく伝える力を身につける。
- イ 語彙力を充実させ、国語に関する興味・関心を持つことができる。
- ウ 目的や場に応じて、言葉遣いや文体などの表現を工夫して話したり書いたりすることができる。
- エ 国語の表現の特色、語句や語彙の成り立ち及び言語の役割について理解を深める。

3. 評価基準・評価方法

①関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解 の観点をつまみ、定期考査・実力テスト・課題・提出物・小テスト・授業態度などを総合して評価する。

4. 年間指導計画及び授業進度予定表

学期	月	単元	学習項目	時数	学習内容(ねらい)および評価の観点	学習領域	評価方法
1 学期	4	基礎編	聞く技術:音当てクイズ、聴写、聞き取り	3	・意識の集中、情報の取り出しができる。	聞く・書く	ワークシート・発表
			文法:動詞の可能表現	3	・ら抜き言葉、れ不足言葉の誤用を改める。	知識・書く	ワークシート
	5		聞く技術:メモの技術、ニュース・講演の記録	3	・メモを作成し、話の要点をつかむ。	読む・書く	ワークシート・発表
			話す技術:発声、伝言ゲーム、道案内	2	・話す前に内容を整理し、仕草や表現を工夫する。	聞く・話す	ワークシート・実技
	6		文法:動詞の使役表現	3	・さ入れ言葉などの誤用を改める。	知識・書く	ワークシート
			話す:朗読、ニュース原稿を読む	3	・聞き手を意識し、表現を工夫する。	読む・聞く	ワークシート・実技
	7		敬語:尊敬語・謙讓語・丁寧語・美化語	5	・敬語の種類と働きを理解する。	知識・書く	ワークシート
			自己表現:自己アピール、自分の意見を述べる	4	・自分の意見を持ち、伝える工夫と楽しみを学ぶ。	聞く・話す	ワークシート・発表
1学期計				30	中間・期末考査を行う		
2 学期	9	応用編	言葉遣い:敬語、電話のかけ方・受け方	4	・高校生にふさわしい言葉遣い、敬語を身につける。	知識・話す	ワークシート・実技
			敬語:具体的な使い方	5	・敬語の誤用を改め、適切な使い方を学ぶ。	知識・話す	ワークシート・実技
	10		言葉遣い:面接練習	5	・面接のポイントを知り、自己PRをする。	話す・聞く・知識	ワークシート・実技
			漢字:試験頻出漢字の演習	3	・漢字に関する正しい知識と表記を学ぶ。	知識・書く	ワークシート
	11		語彙:試験頻出の類義語、対義語	2	・語彙を増やし、知識や表現の幅を広げる。	知識・書く	ワークシート
			情報伝達:報告(インタビュー)、プレゼンテーション	4	・情報を整理し、正しく伝える工夫ができる。	話す・聞く・書く	ワークシート・実技
	12		言葉の意味:慣用句、似た言葉の区別	3	・語彙を増やし、知識や表現の幅を広げる。	知識・書く	ワークシート
			話し合う技術:コンセンサスゲーム、司会者ゲーム	4	・話し合いの基本を理解する。 ・司会の役割を体験し、話し合いに必要な工夫を学ぶ。	話す・聞く・書く	ワークシート・実技
2学期計				30	中間・期末考査を行う		
3 学期	1	実践編	話し合う技術:ブレインストーミング、パネルディスカッション	4	・自由な発想により話し合いの内容を充実させる。	聞く・話す・関心・知識	ワークシート・発表
			総合演習	3	・日本語検定3級レベルの運用能力を確認する。	知識・書く	ワークシート
	2		総合演習	3	・日本語検定2級レベルの運用能力をつける。	知識・書く	ワークシート
3学期計				10	学年末考査を行う		
自己評価 ()内は達成率 A(80%以上)、B(65%以上) C(40%以上)、D(40%未満)					【次年度の課題】		年間授業時数 70